

保健だより

平成 26 年 9 月 24 日
豊橋中央高等学校
保健室

日ごとに秋らしくなってきました。大きなイベントの体育大会、文化祭も間近になってきましたね。

8月末からニュースや新聞などで「デング熱」が取り上げられています。デング熱に感染しないためには、蚊に刺されないようにすることが一番大切です。今月号の保健だよりにはデング熱について（症状・病院受診の目安・予防方法）お知らせを記載してありますので、自分たちには関係ないと思わず予防をしましょう。

デング熱について

蚊がウイルスに感染した人の血を吸うと蚊の体内にウイルスが入ります。その蚊が別の人の血を吸うことでウイルスが感染します。今のところ人から人へは感染しません。

潜伏期間は2～15日(多くは3～7日)とされています。



〈症状〉

デング熱

突然の高熱・頭痛・目の痛み・目の充血など
発熱は2～7日間続き、一度下がるがまた熱が上がる経過をたどることが多い。
全身の筋肉痛・骨関節痛・全身倦怠感など
熱が下がった頃に胸部、体幹から発疹が出はじめ手足や顔面に広がる。

これらの症状は1週間程度で回復へ向かうことが多い。



「2度とかかりたくない!!」というほど
ひどい痛みにおそわれるよ!!

デング出血熱（重症型デング熱）

デングウイルスに感染した人のうち、熱が下がるころに血液中の液体成分(血しょう)が血管からもれ出したり、出血の症状が現れたりする。

血しょうのものは胸水あるいは腹水として現れる。出血は比較的軽い点状出血、注射部位からの出血、鼻血、血便、重篤な吐血、下血と様々で血しょうのものが進行するとショック症状を起し、デングショック症候群とも呼ばれる。



この場合は、適切な治療を行わないと死亡することもある。

〈治療方法〉

デング熱を治療する特別な薬などはありません。
点滴をしたりする対処療法が治療の中心になります。

その他の症状

- 大便が黒くなっている。
- 呼吸困難
- 四肢が冷たい
- 発汗
- 腹部が膨らんでいる
- ひどい腹痛と嘔吐を繰り返す
- 不安や興奮状態になる

再度デング熱にかかるとデング出血熱になる可能性が高まります。一度でも感染したらとにかく蚊にさされないよう対策を施すのが肝心です。

40度近く熱が出た場合、成人では生殖機能に影響を及ぼす可能性もあります。デング熱に感染するリスクがある今は、公園の藪や水辺など蚊が多い場所には近づかないように自衛する必要があります。蚊にさされないのが一番です。くれぐれもご注意を!!

【平成 26 年 9 月 17 日（水）中日新聞掲載】

デング熱 解熱薬ご注意 出血促す恐れ

デング熱の治療で厚生労働省は16日、市販の解熱剤や鎮痛剤にも含まれるアスピリンやイブプロフェン、ロキソニ

指針を改訂し、医療機関などに周知した。

デング熱では急な発熱や頭痛のほか、止血作用のある血液の血小板の減少がみられる。これらの薬剤には、血小板の働きを抑える作用がある

という。デング熱には水分補給やアセトアミノフェンなどの解熱剤による対症療法が基本とされる。

感染17都道府県126人
厚生労働省などは16日、国

内でデング熱に感染した患者が東京都や埼玉県、千葉県で新たに10人確認され、国内感染は17都道府県の計126人になったと発表した。10人は10～50代の男女で、8月29日～9月13日に発症した。

熱が出たからといって市販の解熱剤を安易に飲まないように
注意しましょう!!
まずは、医療機関に診察を受けることをおすすめします。

